

# ふくし体験学習プログラム

～主体的・対話的な深い学びを応援～

地域のゲストティーチャー（GT）が、子どもたちの学習をお手伝いをします！



**総**合的な学習の時間では、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するため、国際理解、情報、環境、福祉などをテーマとした、探求的な学習を進められています。

新宮町社会福祉協議会では、地域住民・福祉施設などとのネットワークを活かし、福祉の分野における学習をお手伝いする「**ふくし体験学習**」を実施しています。



福祉教育教材「とも生きる」  
(発行：福岡県社会福祉協議会)

## 目次

- ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・子ども）を学ぶ体験・交流……………2p～
- ②地域のボランティア活動を学ぶ体験・交流……………8p～
- ③「ふくし」を幅広く捉えるための学習……………9p～
- ④貸出・提供できる学習備品……………10p～
- ⑤プログラム組み合わせ例……………11p～

## お申込みにあたって

- ・本会HPの「ふくし体験学習」ページにある「ふくし体験学習申込書」にてお申込みください。
- ・お申込み前にゲストティーチャー（GT）への謝金の予算の確認をお願いします。
- ・早めのお申込みをお願いします。（特に9～11月は希望が重なる時期です。）
- ・GTはおらず“資料提供のみ”の学習もあります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## お問い合わせ・お申込み先

社会福祉法人 新宮町社会福祉協議会

住所：新宮町緑ヶ浜4丁目3番1号

新宮町福祉センター別館1階

電話：963-0921 FAX：963-0127

メール：shingu@deluxe.ocn.ne.jp

H P：http://www.shingu-shakyo.or.jp/



# ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・子ども）を学ぶ体験・交流

## 1, 手話体験 ～聴覚障がいのある人の生活を知ろう～

対象：小学3年生～

聴覚障がい者にとって大切な言葉である「手話」を体験し、聴覚障がい者の話を聞き、交流することを通して、聴覚障がい者の生活を学ぶことができます。

**人数** 1クラス、40人程度（要相談）

**所要時間** 60分～

**内容** ・指文字、あいさつ、手話の歌  
・聴覚障がい者とのコミュニケーション  
で大切なこと など

**おすすめポイント** 聴覚障がい者をサポートする人たちも協力してくれるため、「ボランティア活動」についても同時にふれることができます。



## 2, アイマスク体験 ～視覚障がいのある人のサポート～

対象：小学4年生～

アイマスクを装着して校内を歩行する体験、歩行を介助するガイド体験をします。体験的に学ぶことを通して、視覚障がい者の生活にふれることができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・“見え方”の違いを学ぶ  
・声のかけ方、話しかけ方  
・段差や階段でのガイドの仕方 など

**おすすめポイント** クラスメイト同士でガイドし合うことで、日頃の声かけ、コミュニケーションの意識にもつながります。



## 3, 点字体験 ～視覚障がいのある人の生活を知ろう～

対象：小学4年生～

視覚障がい者にとって大切な「点字」を読み、書いてみる体験です。日用品、点字ブロックなど、身の回りにも点字があることを学び、点字、視覚障がいを身近に感じるすることができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・点字の成り立ち、歴史  
・困っている視覚障がい者を見かけたら？  
・点字の読み書き など

**おすすめポイント** 「点字を読むことは難しい」だけでなく、視覚障がい者にとって大切なものであることを知り、身近にある点字を大切にすることにもつながり、道徳心を養うこともできます。



# ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・こども）を学ぶ体験・交流

## 4, 視覚障がいのある人の生活を知ろう

対象:小学4年生～

視覚障がい者の話を聞き、交流することを通して、視覚障がい者の生活を学ぶことができます。点字で書いた質問を、読んでもらい、答えてもらうこともでき、アイマスク体験や点字体験での学びがより深まります。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・点字で質問、手紙を書く  
・視覚障がい者の生活の工夫や便利な道具を知る など



**おすすめポイント** 視覚障がい者から趣味や仕事など生活の話聞くことで、視覚障がい者を身近に感じることができます。直接質問できる貴重な機会です。

## 5, 車いすを利用している人の生活を知ろう

対象:小学3年生～

車いすを利用して生活している人から、日頃の生活の話聞き、交流することを通して、身体障がい者の生活を学ぶことができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 40分～

**内容** ・手伝ってもらおうとうれしいこと  
・車いすを利用した生活の話  
・車いすの人が運転できる車 など



**おすすめポイント** 「車いすの人＝何もできない(特別な人)」と思っているこどももいます。そういったマイナスイメージを払拭することができ、自分たちにできることを考えるきっかけとなります。

## 6, 車いすを体験してみよう

対象:小学3年生～

実際に車いすに乗り、車いす操作を体験するだけの学習ではなく、車いすの押し方、段差等での手助けの仕方学び、「助け合い」の視点を養うことができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・車いすの広げ方、たたみ方  
・車いすの操作を体験  
・車いすの押し方、声のかけ方 など



**おすすめポイント** 事前学習、事後学習をしっかり行うことで、「車いすは大変、、、」というマイナスイメージが残らず、実のある体験になります。

# ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・子ども）を学ぶ体験・交流

## 7, パラスポーツを体験・交流してみよう

対象：小学3年生～

パラスポーツ（主にボッチャ）を体験し、障がいがあってもなくても参加できるスポーツを知ること、すべての人たちが社会参加できる大切さを学ぶことができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・ボッチャやフライングディスクを体験  
・障がいのある人との試合  
・学んだことを他の人に教えてみる など



**おすすめポイント** 障がいのある人との試合では、活動的な姿を見て交流できるため、相互理解を深める学習にできます。

## 8, 障がい者施設を見学してみよう

対象：小学3年生～

障がいのある人たちが働いている施設を見学し、職員や利用者から話を聞くことで、障がいのある人の生活にふれることができる学習です。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・施設で働いている人たちのこと  
・障がい者が働く職場見学  
・地域で働く障がい者の生活 など



**おすすめポイント** 「障がい者は何もできない」というイメージを払拭し、自分も相手も同じように生活していることに気づくことができます。

## 9, 知的障がいってどんなこと？

対象：小学4年生～

「知的障がい」という目には見えにくい障がいについて、講話を通して学ぶだけでなく、ロールプレイを通して学ぶことで、より体験的に学習することができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・いろいろな障がいのこと（知的・精神等）  
・知的障がいのある人の特徴  
・知的障がい者とのコミュニケーション など



**おすすめポイント** 「知的障がい」について座学で学ぶだけでなく、知的障がい者との交流も取り入れることができます。交流を取り入れることで、より主体性のある学習につながります。

# ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・子ども）を学ぶ体験・交流

## 10、年をとるってどんなこと？

対象：小学4年生～

「年をとる」ということを、講義だけでなく、グループワークも交えて学ぶことができます。時間によっては、困っている高齢者への声かけ体験を取り入れることもできます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 90分～

**内容** ・加齢による目・耳などの体の変化  
・高齢者へのやさしい声かけ、対応  
・認知症に関する短編動画を視聴

など

**おすすめポイント** 「年をとる」ことは困ることだけではなく、良い点もあることにも気づく学習をすることができます。



## 11、高齢者の体の動きを体験しよう

対象：小学4年生～

“高齢者疑似体験セット”を使って、高齢になったときの体の動きにくさを体験します。「10、年をとるってどういうこと？」と併せて取り入れることが効果的です。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 90分～

**内容** ・加齢による体の動きづらさを体験  
・高齢者役と介助者役に分かれたサポート体験

など

**おすすめポイント** 「14、地域のシニアと交流しよう」を組み合わせることで、“高齢者は大変”というマイナスな感想で終わらず、実りのある学習にできます。



## 12、高齢者施設を見学してみよう

対象：小学4年生～

介護の現場を見学し、施設職員が日ごろどのように高齢者と接しているかを知ることで、“自分自身が高齢者としてどう接するか”をより具体的に考えることのできる学習です。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・施設で働いている人たちのこと  
・職員の高齢者への対応の方法  
・高齢者に配慮した施設内の工夫

など

**おすすめポイント** 介護職員現場を見て、施設職員から話を聞くことで、高齢者に関する学習が深まるだけでなく、介護職についての学習にもなります。



# ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・子ども）を学ぶ体験・交流

## 13, 認知症について学ぼう ～認知症サポーター養成講座～

対象：小学5年生～

認知症の症状、認知症の人への接し方を学ぶことができます。講義だけでなく、介護の体験談や声掛け体験など、さまざまな内容で学びを深めることができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 90分～

**内容**

- ・認知症の症状、行動
- ・認知症の人の家族の気持ち
- ・認知症の人と接するときの心がまえ など

**おすすめポイント** 「認知症はこわい」というマイナスイメージから、「早期発見、接し方で改善する」という視点をもつことにつながります。



## 14, 地域のシニアと交流しよう

対象：小学4年生～

子どもたちが考えた企画で、公民館（サロン）で交流したり、学校に招いて交流することで、相互理解を促すことができます。  
（※交流前に高齢者に関する学習・体験をしていると効果的です。）

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容**

- ・普段のサロンの活動体験（体操、歌など）
- ・子どもが考えた企画をサロン参加者と一緒に楽しむ（クイズなど） など

**おすすめポイント** 子どもたちが考えた内容で交流し、地域の高齢者に喜んでもらうことで、ボランティア精神を育むことにもつながります。



## 15, 小さな子どもの特徴を知ろう

対象：小学4年生～

保育園で働く人から話を聞く学習です。学校に赴いて話をすることもできますが、保育園の見学と併せて実施することもできます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容**

- ・保育士の人たちの仕事
- ・小さな子どもと接するときの注意点
- ・小さな子どもと接するときの工夫 など

**おすすめポイント** 保育園で働く人から話を聞くことで、小さな子どもに関する学習が深まるだけでなく、保育士という職業についての学習にもなります。



# ①地域で暮らす人たち（高齢・障がい・子ども）を学ぶ体験・交流

## 16, 小さなこどものサポート体験

対象: 中学1年生～

地域の子育て支援をしているNPO法人と連携した学習です。実際に散歩や食事の手伝いなど、こどもに寄り添う体験を通して、相手を思いやる心を学ぶことができます。

**人数** 1クラス、10人程度

**所要時間** 60分～

**内容**

- ・こどもの散歩の付き添い
- ・こどもの食事の準備、食事中のサポート
- ・小さなこどもと接するときの声掛け・注意点 など



**おすすめポイント** こどもに寄り添うことを大切にしたい学習であり、学生自身も頼り・頼られることを学ぶ、心の変化に気づききっかけになります。

## 17, 地域のこどもと交流しよう ～公民館を訪問～

対象: 小学4年生～

身近で暮らす小さなこどもと公民館のサロンで交流することで、相互理解を促すことができます。交流企画を小学生が企画することで、より主体的に学ぶことができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容**

- ・こどもの考えたクイズ、遊び
- ・手作りの物をこどもたちへプレゼント
- ・子育て中の親への質問 など



**おすすめポイント** こどもたちが考えた内容で交流し、地域のこどもたちに喜んでもらうことで、ボランティア精神を育むことにもつながります。

## 18, 保育園のこどもと交流しよう

対象: 小学4年生～

実際に保育園児と交流することを通して、小さなこどもの特徴についての理解を深めることができます。また、自分たちで交流企画を考えることで、主体的な学習とすることができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容**

- ・こどもの考えたクイズ、遊び
- ・手作りの物をこどもたちへプレゼント
- ・保育園児への小学校案内、紹介 など



**おすすめポイント** 小さなこどもの特徴を事前に学ぶだけでなく、実際に交流することで、小さなこどもとの接し方についてより深めることができます。

## ②地域のボランティア活動を学ぶ体験・交流

### 19, 民生委員・児童委員と福祉委員の活動を知ろう

対象：中学1年生～

地域の福祉ニーズのアンテナ役として、活躍している人たちが身近にいることを知り、地域の中で自分にもできることを考えるきっかけとなる学習です。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・見守り訪問活動の話  
・中学生(高校生)と一緒に意見交換  
・中学生(高校生)にもできることを考える など

**おすすめポイント** 地域の福祉活動を学ぶことで、自分の暮らす地域を知ることができ、「郷土愛」を育むことにもつながります。



### 20, バルーンアートボランティアを学ぼう

対象：小学4年生～

“バルーンアート”という視点から楽しく、体験的にボランティアを学ぶことで、「これなら自分でもできるかも」と、ボランティアへのハードルを下げるすることができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・地域サロンでの交流活動  
・バルーンアート作品づくり体験  
・バルーンアート使った遊び体験 など

**おすすめポイント** この学習後に、こどもたちがバルーンアートによる交流企画を立て、実際に交流活動をすることで、より主体的な学習になります。



### 21, 傾聴ボランティアを学ぼう

対象：中学1年生～

相手の立場に立ち話を聴く“傾聴”を学び、体験することで、福祉やボランティアを特別なものではなく、身近なものと感じることができる学習です。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・相手の話への“共感”“受容”  
・施設や地域での傾聴ボランティア  
・ペアになったの傾聴体験 など

**おすすめポイント** 日頃の学校や家庭での生活にも活かせる学習であり、「ふだんのくらしのしあわせ」を体感することができます。



### ③ 「ふくし」を幅広く捉えるための学習

## 22, 福祉センターを見学してみよう

対象:小学3年生～

福祉センターにあるやさしい工夫(点字ブロック、リフトカー等)について学ぶだけでなく、日常生活において、自分自身にできることを考えるきっかけづくりを行います。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 60分～

**内容** ・新宮町に住む人たちのことを知る  
・福祉センターにあるやさしい工夫を探す  
・自分にできることを考える など



**おすすめポイント** 「ふくし」をより身近に感じることができる学習です。車いす体験などの具体的な体験学習の前に実施することがおすすめです。

## 23, 赤い羽根共同募金ってなあに？

対象:小学4年生～

赤い羽根共同募金で集められた募金が、具体的にどのように使われているかを知り、自分たちの募金が“ふくしのまちづくり”のために役立っていることを学ぶことができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 30分～

**内容** ・赤い羽根共同募金の歴史  
・赤い羽根共同募金の使いみち  
・募金が活用されたボランティア活動 など



**おすすめポイント** 使いみちの具体例として、ボランティア活動にもふれるため、ボランティアに関する学習の導入としてもおすすめです。

## 24, “しあわせ”について考えてみよう

対象:小学4年生～

自分が考える“しあわせ”、他の人が考える“しあわせ”の違いに気づき、それらをお互いに認め合うことや支え合うことの大切さを学ぶことができます。

**人数** 1クラス、40人程度

**所要時間** 90分～

**内容** ・自分にとっての“しあわせ”を考える  
・人によって考える“しあわせ”の違いに気づく  
・支え合いの中で大切なことを学ぶ など



**おすすめポイント** 「ふくし=しあわせ」と捉え、自分自身にも身近なものであることに気づくことができます。振り返り学習としての実施がおすすめです。

## ④学習のための貸出備品など

### 1, 貸出できる備品



①高齢者体験セット(大人用)  
上限:4セット



②高齢者体験セット(こども用)  
上限:4セット



③車いす(自走式)  
上限:10台



④ボッチャ  
上限:2セット



⑤白杖  
上限:10本



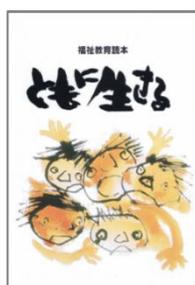
⑥レクリエーション用具  
(写真は例です)

※事前に「備品借用申請書(本会様式)」の提出が必要です。

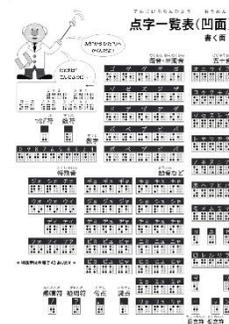
### 2, 提供できる資料



①福祉教育教材  
「とも生きる」



②福祉教育読本  
「とも生きる」



③点字学習用資料



④「しあわせについて考えてみよう」学習用資料

※①、②の資料については、小学校、特別支援学校へ、希望冊数を12月頃に確認し、4月頃に配付しています。

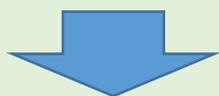
### (例1) 支え合いの“しくみ”を学び、実践するプログラム

#### 【事前学習】

福祉教育教材「ともに生きる」を使用して、基礎知識を深める。

##### ○内容

「第1章 支え合うってなんだろう」「第6章 わたしにできることってなんだろう」で導入としての学習。



#### 【赤い羽根共同募金ってなあに？】

赤い羽根共同募金について学び、支え合いの基礎に触れる。

##### ○内容

募金の使い道の一例として、ボランティア活動のことも学び支え合い活動のイメージを膨らませる。

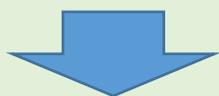


#### 【バルーンアートボランティアを学ぼう】

学んだことを体験し、支え合いの理解を発展させる。

##### ○内容

ボランティア団体「バルーンアート」の話聞き、その活動を体験することで理解を深める。



#### 【学んだことを活かして、地域の人と交流】

学んだことを活かし、主体的に交流活動を行う。

##### ○内容

“考えた企画で地域の人喜んでくれる”という成功体験から、支え合い活動の喜びを実感する。



#### 【事後学習（振り返り学習）】

“しあわせについて考えてみよう”による学習の振り返り。

##### ○内容

“しあわせ”について考え、支え合うことの大切さを振り返ることで、日頃から福祉的な考えを持てるようにする。



### (例2) シニアとの相互理解を深めるプログラム

#### 【事前学習】

福祉教育教材「ともに生きる」を使用して、基礎知識を深める。

##### ○内容

「第1章 支え合うってなんだろう」「第2章 年をとるってどういうこと」で導入としての学習。



#### 【年をとるってどんなこと?】

“年をとる” ことについて、座学・グループワークで深める。

##### ○内容

加齢による身体的な衰え（目、耳など）だけではなく、年をとることの良い点についても考える。



#### 【高齢者の体の動きを体験しよう】

体験セットを活用し、加齢による体の動きを体験する。

##### ○内容

体験する人とサポートする人に分かれて体験活動を進め、介助体験も含む。



#### 【シニアとの交流内容を自分たちで考える】

交流に臨む前に、シニアと一緒にできる内容を企画する。

##### ○内容

「クイズ」「歌」「レクリエーション」などの交流企画をこどもが主体的に考える。



#### 【地域のシニアと交流しよう】

こどもが考えた企画、日頃のサロン内容を通して交流する。

##### ○内容

シニアとの交流を通して、これまで学んだことを実践的に学ぶ。



### (例3) 視覚障がい者との相互理解を深めるプログラム

#### 【事前学習】

福祉教育教材「ともに生きる」を使用して、基礎知識を深める。

##### ○内容

「第1章 支え合うってなんだろう」「第3章 障害があるってどういうこと」で導入としての学習。



#### 【アイマスク体験 ～視覚障がい者のサポート～】

アイマスクを装着して、視覚障がいについて体験的に学ぶ。

##### ○内容

“見え方”の違い、声のかけ方、話しかけ方、段差や階段でのガイドの仕方などを体験する。

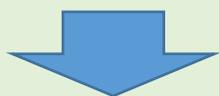


#### 【点字体験 ～視覚障がい者の生活を知らう～】

「点字」を通して、視覚障がい者の生活に触れる。

##### ○内容

点字の読み書きだけでなく、「困っている視覚障がい者を見かけたら？」を考える。

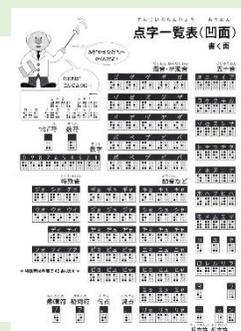


#### 【視覚障がい者との交流に向けた準備】

交流に臨む前に、点字を使って準備する。

##### ○内容

視覚障がい者への質問や、アイマスク体験等の感想を点字で書くなど、準備をする。



#### 【視覚障がいのある人の生活を知らう】

視覚障がい者との交流を通して、これまでの学びを深める。

##### ○内容

視覚障がい者から趣味や仕事の話聞き、これまで学んだ視覚障がいについて、身近なものとして学習を深める。



### (例4) 車いす利用者との相互理解を深めるプログラム

#### 【事前学習】

福祉教育教材「ともに生きる」を使用して、基礎知識を深める。

##### ○内容

「第1章 支え合うってなんだろう」「第3章 障害があるってどういうこと」で導入としての学習。



#### 【障がい者施設を見学してみよう】

車いす利用者などが働く障がい者施設を見学する。

##### ○内容

障がい者の働く場を見学するだけでなく、職員や利用者の話を聞くことで、障がい理解を深める。

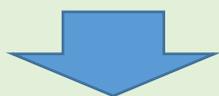


#### 【車いすを体験してみよう】

車いす体験を通して、車いす利用者の生活に触れる。

##### ○内容

車いすの操作を体験するだけでなく、車いすの押し方、声のかけ方などのサポートも体験する。



#### 【パラスポーツを体験・交流してみよう】

パラスポーツを通じた交流により、相互理解を促す。

##### ○内容

障がいのある、なしに関わらず楽しめるボッチャやフライングディスク等の体験・交流を通して、より理解を深める。



#### 【車いすを利用している人の生活を知ろう】

身体障がい者との交流を通して、これまでの学びを深める。

##### ○内容

車いす利用者から趣味や仕事の話聞き、これまで学んだ内容について、身近なものとして学習を深める。

